

第1回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2023年11月25日(土)13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数22名(欠席者数4名)
大刀洗町	町長、副町長、教育長 事務局:総務課 説明担当課:建設課、産業課、総務課(消防防災安全係)
コーディネーター	伊藤伸(構想日本 統括ディレクター)

概要

1. 開催挨拶

- (1)町長より挨拶
- (2)コーディネーターより挨拶

2. 全体説明

- (1)「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明(コーディネーター)
- (2)テーマ「私たちが考える治水デザイン」選定の理由(総務課)
- (3)大刀洗町の流域治水の現状と取り組み(建設課)

3. 協議

- (1)自己紹介
- (2)話し合い
- (3)アンケート記入

4. 事務連絡

会議内容

1. 開催挨拶

(1)町長より挨拶

- 316名が参加してくれている。
- 自分ごと化に捉えてもらえる町民が増えればより良い町になる。
- 平成29年九州北部豪雨以来、7年の間で6年、大雨災害にあっている。
- 体育館のグラウンドを排水工事、7箇所のため池の浚渫、防災無線の整備
- 新たに調節池の整備を県にお願いしている。
- 構想日本から伊藤伸氏にコーディネーターとして来てもらっている。事業仕分けを実施した時からの付き合いがある。
- 委員1人1人が住んでいる地域に关心を持ち、行動に踏み出すきっかけとなることを祈る。

(2)コーディネーターより挨拶

- 一番最初に自分ごと化会議を取り入れたのは大刀洗町が最初。30回以上はメディアに取り上げられている。
- 無作為抽出で選ばれる確率は5%。その中から23の方に来ていただいた。
- 3年連続で参加していただいた方がいて、2回目、3回目という方もいる。
- 無作為抽出の大きな特徴は、たまたまくじ引きで当たった人と一緒に町の事を考えていくところ。
- 休みの時間を使って来てくれているので、楽しい時間にしたいと思う

2. 全体説明

(1)「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明

コーディネーターから、資料に基づき説明。

- 行政への住民参加は、以前は公募方式や推薦方式が多かった。
- これからは無作為抽出方式を加えることで、住民と行政の距離を大きく近づけることが期待できる。
- 大刀洗町は条例で住民協議会を設置することになっている。全国で唯一。大きな特徴。
- 条例で設置されている協議会なので、最終的に町に提出する提案書に対して、行政は受け答えをするという義務が発生する。
- 自分ごと化会議は、身近な問題を行政任せにせず、住民自らが行政の取り組みについて考え、意見を出し合って課題解決を目指すことを目的にしている。

【特徴】

- 参加する住民の選び方が無作為抽出
- 地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論
- 「自分ごと」で考え「個人でできること」「地域でできること」から考える
- 自分ごと化会議の応募率は、全国平均 3.8%(中央値 2.8%)だが、大刀洗町は昨年度5.4%、今年度4.7%だった。住民の参加意識が高い。
- これまでに大刀洗町で自分ごと化会議(住民協議会)に参加した住民は293人で、OB・OG会も発足している。2018年には、OB・OG会が町議会議員を招待するという、これまでに見られなかった構図の会議も開催された。

※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

(2) テーマ「私たちが考える治水デザイン」選定の理由(総務課)

総務課から説明。

- 昨今の地球温暖化による大雨災害が平成 29 年以降、6 年間で町は被災している。
- ダムや河川整備のみの治水ではなく、流域全体があらゆる手立てを組み合してリスクを下げる流域治水という概念を国が打ち出しており、大刀洗町も住民一体となってこの問題にどう立ち向かうのか、まずは自分たちで何ができるのか、地域としてできること、行政でできることをお考えいただきたい。

(3) 大刀洗町の流域治水の現状と取り組み(建設課)

建設課から、資料に基づき説明。

- 流域治水とは
 - 降雨や降雪がその河川に流入する地域で水害を防ぐこと
 - 大刀洗町にある河川
 - 国管理河川: 筑後川、佐田川、小石原川(旧栄田橋下流)
 - 県管理河川: 桂川、長田川、二又川、小石原川(旧栄田橋上流)、陣屋川、大刀洗川、寺川
 - 近年の筑後川
 - 令和 5 年 7 月 10 日豪雨で観測史上 3 位の 10.25m の水位を記録
 - 沔濫危険水位(8.50m)を複数回記録
 - ハード事業は、予算や時間、その他(用地の協力)制約がある。(河川改修)
 - ソフト事業の充実を図っている。(地域防災訓練、水防訓練、防災教育、田んぼダムの普及・啓発等々)
 - 近年の豪雨
 - 全国的に 1 時間あたりの降水量 50 mm 以上、80 mm 以上、100 mm 以上の年間発生回数はともに増加傾向
 - 朝倉地区における降水量 70 mm 以上の日数は、1983 年から 10 年間で 14 日だったのに対し、2013 年から 10 年間は 23 日と、明らかに雨の降り方が激しくなっている。
 - 私たちにできること
 - 雨水を庭で溜めることができないだろうか
 - 自宅近くの側溝は土砂で埋まっていないだろうか
 - 水害に備えて、避難経路は確認しているか
- ～それぞれの意識の変化が大きな流れの変化になる～

※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

3. 協議

(1)自己紹介

コ: 次に、自己紹介を兼ねて、以下のことについてご発言いただきたい。

【①名前・地域、②大刀洗町に住んでどのくらい、③仕事(所属)、④水害の経験、⑤町の水害や取り組みについて感じていること】

- ①名簿のとおり
- ②住み始めてからの年数
 - ・1年未満:0人
 - ・1~10年:4人
 - ・11~20年:6人
 - ・21~30年:5人
 - ・31~40年:4人
 - ・41~50年:2人
 - ・51~60年:1人
 - ・60年以上:0人
- ③仕事(所属)
 - ・介護関係
 - ・障害者福祉支援員
 - ・介護福祉士
 - ・元看護師
 - ・警察署職員
 - ・農家
 - ・ゲームメーカー
 - ・公務員
 - ・水質調査関係
 - ・教員
 - ・元美容師
 - ・飲食店(ラーメン)
 - ・農協職員
 - ・事務系
 - ・高校生
- ④水害の経験
 - ・昭和 28 年の大水害の時に、実家が被災。背丈くらい床上浸水があったと聞いている。
 - ・全然ない。あまり想像もつかない。
 - ・北野町にあるの実家が水害で孤立状態になった。私自身は経験はない。
 - ・最近、5、6 年は田畠に水が入ってきてしまって、片付けるのが大変だった。被災届を作る際は、書類が複雑で大変だった。
 - ・主人から昭和 28 年の水害はすごかったと聞いている。近所の古い小屋に木製の舟が吊るされていて、なぜ川から離れたところに舟があるのだろうと疑問に思ったが、水害があった時に備えて舟が用意されていると聞い

た。

- ・昭和の時に、水害があった時に弟と一緒にボート出して遊んで、親に怒られた思い出がある。実家が土間で、川が氾濫して靴がブカブカ浮いていた。
- ・仕事に向かっていた時に、冠水した道路に遭遇したことがある。
- ・今住んでいるところの前に畠があるのだが、所有者から住宅地が開発されたことによって畠が水に浸かるようになってしまったと聞いた。
- ・昭和 28 年の水害の時に、母方の実家は 2 階まで水に浸かったと聞いている。
- ・実家のある長崎県で小学校低学年の時に台風で床下浸水を経験したことがある。最近でも大雨で道が冠水して子どもを迎えに行けないということがあり、子ども達を不安にさせてしまった。
- ・仕事をしている時に川が氾濫して、施設利用者の高齢の方をおんぶして高台に上ったという経験がある。
- ・キッチンの排水溝とか、トイレがボコボコいっているのを見たり、仕事からの帰り道に道路が冠水しているところに遭遇したくらい。
- ・消防団に入っていて、建設課説明資料に掲載されていた写真に自分が写っていたが、実際に現場にいてすごい勢いで水が流れ込んでいた。本当に危なかったので近くの住民のみなさんにはいざとなったら 2 階に避難してくださいと団員のメンバーで垂直避難を促した。
- ・平成 29 年の九州北部豪雨の前日に子どもが生まれて、会いに行けなかった。仕事上、保険の関係で被害調査をしなければならなくて、災害後は毎日調査をしていた。
- ・豪雨で道が水没していて、家に帰れなくて田んぼの間を通れるなと思って車で行ったら、納車から 3 カ月であったが水没してしまった。腰くらいまで水没して、無理やりドアを開けて出た。豪雨があると道が水没してしまい、みんながいつもは通らない道を通るので、道が渋滞して、家から出られないということが起きている。命の危険を感じた。
- ・自宅の裏の川が氾濫して、親戚の家まで避難したというのはここ何年か続いている。
- ・自宅前の道路が氾濫して、母と怖いねというのが毎年恒例になっている。

● ⑤町の水害や取り組みについて感じていること

- ・低いところに水は溜まるからそこを整地は必要ではないかと思う。
- ・冠水して通れなくなっているところを早めに通行止めにしてもらって、安全を確保していただいている。
- ・想定外の災害が増えているので、想定を超えることを考え取り組まなければならないと思っている。
- ・大刀洗はいつも同じところに水が集まっているような印象がある。他のところで例えば遊水地化といつても、あらかじめそこに水を流れ込ませるような仕組みにしてしまう。そのようなところをやられてるところも自治体としてはある。
- ・豪雨の時に、通学路に土砂や木があり通れないなと思っていたが、町の方が働きかけで優先的に片付けてもらった。校長先生もありがたいと言っていた。
- ・道が冠水した時とか、町は何やってるのみたいな感じだったが、今日の前半の話を聞いて自分が何やってるのかなと考えたときに何もやってないじやんということを思い知らされた気がする。
- ・大体 6、7 月くらいになると雨がひどくて、町も避難所を開設するのですが、消防団が巡回すると大体の人が避難していない。どのタイミングで避難して良いのか分からぬという声を聞く。避難所を開設した時は、防災士がたくさんいるのでリーダーシップ的なものは任せて、町の人たちには家の周囲とかの安否確認とかをした方が良いのではないかと思う。広報とかで、マイタイムラインを周知してもらっていて、しっかりと 3 日間の食料をキープしておくとか、排水溝がボコボコしていたら、水をビニール袋に入れて、逆流を防ぐとか、毎年水害が起こって当たり前という考え方で家庭でも働きかけをした方が良いと思う。
- ・冠水情報とかをホームページでも公開していると思うが、なかなか情報が得られず、Twitter とかでしか対応

ができなくて、もう少し更新をしてほしいと思う。

(2) 話合い

コ: 今日参加されたのは 22 名。今日はこの後議論する時間も当然ないので、振り返りは次回以降に。先に水害の話以外で、やっぱりずっと大刀洗に住んでいる人の方が少ない。ずっと大刀洗に住んでいるのは 3 名ぐらいですかね。さっき大刀洗の人口増の話をしましたけど、特に社会増、途中から引っ越してくる人の数が、確か 2016 年から 7 年間ずっとプラス。これはかなり特徴的。その代わり生まれた子供の数、亡くなる人の数でいくと、亡くなる人の数の方がここ 10 年ぐらいずっと多い。トータルすると、結果的に多分 5 年くらいは増えているのが、今の大刀洗の特徴。ぱっと見たら、例えば 2018 年とかは社会増が 100 人ぐらい。多分、先ほどからの話にも繋がると思っていて、委員①さん、転々としていく中でここに新築で家を建てたい、判断材料って何かあったか？

委: 知人が工務店をしており、その同級生の家族が住んでいたところが空いたということで移った。

コ: 当然大刀洗以外の周辺の自治体もある中で、大刀洗に来たのはとてもいいことだと思う。あといくつか、次回を迎える前に確認した方がいいのだが、被害があつて被害届を出すときの書類がすごく難しかった。僕はデジタル庁ってところにいて、あらゆる書類がわかりにくくて、出すのを諦める人がやっぱり一定数いる。これを何とかしようと、デジタル庁はしている。現状、産業課としてはどう？ ちょっと難しい。

町: おそらく被災地証明のことだと思う。産業課としては、どこで被害が起こっているのかを把握したくて、農家さんにお願いして出してもらっている。今はまだ紙に頼り切っている状況があって、詳しく書いてもらわなきゃいけない。何とか改善できたらと思っている。

コ: 新築で家が建って、水の流れが変わる。これはまず、建築基準の中でそういう決まりって僕の認識ではないなと思っている。何か決まりはあったか？

町: 一定規模以上の面積を開発するときには、調整地を設けたり、一気に流れ出さないような施設を作る必要があるのだが、それ以下だと法的ではないと思う。田んぼの一部に戸建住宅を建てるといった場合は規制の対象にはなってこない。

コ: 先ほどからちょっと出ている大雨のときに、排水溝から水が溢れ出る要因は？

町: この地域で整備している道路側溝っていうのは、昔の基準で作っている。基本的に時間 30 mm ぐらいまでしか排水できない。それが 50 mm とか 80 mm という雨が降った場合には、側溝だけでは対応しきれずに冠水してしまうというのが現状。

コ: やっぱり、昔よりも今の方が圧倒的に水が溢れる？ 九州北部豪雨以降？

委: 九州北部豪雨以降、よく聞くようになった気がする。

コ: そのための対策として行政でやれることは、例えば農業用ため池の浚渫、溜まっている泥を取り除いて、水を貯められるようにしようと。今整備している 7ヶ所は溢れた水がそこに行くような経路になっている？

町: ため池は町の北側に集中していて、よく冠水しているのがため池の南側に多いので、水が集まつてくるかということはそういうことではないかなと。もちろん上から入つてくる量を減らすというのも重要なことだと思う。両方の対策が必要だと考えている。

コ: 担当課の感触でいいので、令和 4 年からやっているからまだ途中だという前提で、効果は感じている？

町: まだ途中なので、検証ができない。今後の課題だと思っている。

コ: まさに次回以降のテーマになると思うが、かさ増しとかできたら良いけど予算的な制約がある。自分たちにできるって何なのかを次回までに考えてみてほしい。なかなか水害の予防策として自分たちに何ができるかって考え

ると難しいかもしれない。でもここ 6 年間は水害が起きていて、いつ起きてもおかしくないとまず考えなきやいけない。水害を経験している人は身近なことだと思うが、経験していない人はなかなか関心を持てないと思う。関心を持つない人が関心を持つってすごく難しい。他人ごとを自分のこととして捉えるためのアイデアを次回のテーマにしたいと思う。関心を持つためには必然性が必要だと過去に提出した提案書には書かれている。必然性がないとここにいる 2、3 時間はそう思えるかもしれないけど、家に帰ってしまうと忘れてしまう。継続して意識を持つためには何か意識を持つきっかけが必要。もしかしたらゲーム感覚で水害のことを考えられることがあるかもしれない。必然ってどう作るのか。私は行政主導でやらなくちゃいけないこともあると思っているが、ぜひみなさんにも自分たちでやることってないかなということを考える。

次回の先取りだが、委員さん、遊水池とか話していたと思うが、対策をしている事例があればぜひ。

委: 佐賀の遊水池は、水が増水したら堰が倒れて田んぼの方に水が引き込まれるようなことで、国交省が対応している。国家プロジェクトで、仮想空間上でわざと洪水を起こしてみよう。川が増水したら水がどのように流れていか、そのような被害が出るのかを検証してみようというはある。

コ: 大刀洗で防災公園ってある?

町: 大刀洗川調節池の通常時の利用については、地下水位も高いことがあって、実際に掘った後どう利用するかつていうのは 2 段階で検討しようってことになっている。1 つは、大刀洗川の流れが変わるところに 10 ヘクタールの調節池の整備を県に整備を進めてもらっている。水害も少しは軽減できるのではないかと期待している。ただ、筑後川の水位が高くなつて大刀洗川が流れ込めずに下流から水がくる形になつてるので、上流部をおさえただけで効果があるのかは実際にやってみないと分からぬ部分もある。もう 1 つ、2 ヘクタールの調整池を県に検討を進めてもらっている。陣屋川は橋梁の間がちょっと絞つてあつたので、うまく水が流れなかつたというのがあつたが、改修して流れるようになったため、本郷地区の浸水被害は遙減できるのではないかと思う。ただ、逆を言うと北野町の方に一気に流れしていくので、少し厳しい状況になるのかなと。どうしても、上下流のバランスがあるので。

コ: 大刀洗だけで完結しているものではないので、大刀洗だけではいかんということ。

さつきも避難所に行くにも行けないっていう話があつて、次回の資料で、避難所の一覧は出ていると思うが、理想はそれにこの数年で冠水しているところがマッピングされているものを突合すると、この家の人は行けないなどのが見えてくるのではないかと思うが、さすがに難しい?

町: 避難所は災害の種類で開ける、開けないを判断していく、道路冠水の状況を何らかの形でお示しできればと思う。

コ: せつかくなので、災害種別でこういう動きをしてっていうのがあると思うので、それも配つてほしい。夜、大雨になるときには夜は動けないので夕方のタイミングで避難指示を出すが最近増えている。増えているけれど、なかなか避難してくれないっていう問題は行政だけで解決できるものじゃない。そこは今後考えていきたいなど。

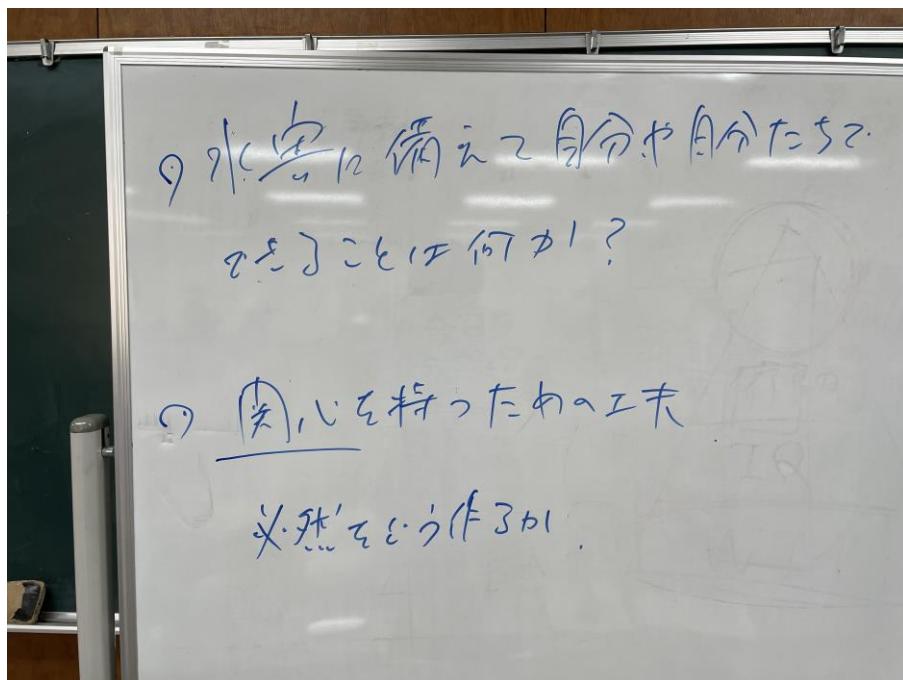
水害の時って堤防をしっかり整備しようという話が結構出てくる。岩手県の田老地区は水害を何回も繰り返していて、10mの防潮堤を建てていて東日本大震災の時も大丈夫だと思つてしまつた。結果、避難が遅れて 180 人くらい亡くなつたという話がよく出てきて、それから 12 年経つて今では 14, 5m の防潮堤がある。これがいいのかどうか。もちろんハードという何かを整備するっていうことで被害を防ぐっていうことも、必要かもしれない。けれども多分それで完璧にはならないから、起きちゃつたとき、水がきたとき、自分たちでどうするかっていうことを、この 4 回を通して話していきたいと思う。

4. 事務連絡

総務課より事務連絡

- 第2回は12月16日(土)午後1時から開催する。

ホワイトボードの写真



次回協議予定の概要

- 「テーマ」
 - 水害に備えて自分や自分たちでできることは何か？
 - 水害に关心を持つための工夫(必然をどう作るか？)